

京都文教大学

KYOTO BUNKYO UNIVERSITY

教育後援会

2025 Newsletter No.1

京都
文教
大学
ホームページ



大学公式「X」



表紙写真／5月10日（土） 京都文教学園新入生合同祖山参拝を実施しました。知恩院御影堂内で法要が執り行われ、新入生代表の発声のもと、全員で「誓いの言葉」を述べ、これからの学びの誓いを新たにしました。

INDEX

学長よりご挨拶／教育後援会会長よりご挨拶／就職部 就職進路課より／学生部 学生課より／社会連携部 フィールドリサーチオフィスより／教務部 大学教務課より／図書館だより／京都文教大学INFORMATION／事務局お問い合わせ先一覧／教育後援会事業計画／教育後援会役員会議事録／教育後援会総会／教育後援会役員名簿／大学役職者一覧／教育後援会決算報告／教育後援会予算報告／教育後援会規約

編集・発行 京都文教大学教育後援会事務局(総務課内) 〒611-0041 京都府宇治市槇島町千足80

教育後援会ホームページ : <https://www.kbu.ac.jp/kbu/koenkai/index.html>

学長よりご挨拶

平素より、京都文教大学の教育・研究活動に格別のご理解とご協力を賜り、大学を代表して深く感謝を申し上げます。

本学は、建学の理念である「四弘誓願（しごぜいがん）＝ともいき」の精神に基づき、「地域まるごとともいき（共生）キャンパス」として、学生一人ひとりに応じたリアルな社会体験を通じた学びの機会を豊富に提供してきました。

現在、社会は激しく変動し、その状況は複雑化しています。激動する国際情勢や経済・産業の状況に加え、デジタル化（DX）のスピードも加速し、AI技術の進展など、これまでの知見だけでは対応が難しい予測不能な事態も多く生じています。このような時代を乗り越え、未来を創造していくために、大学での学びや経験の重要性が一層高まっています。学生たちには、専門的な知識の修得や資格取得はもちろんのこと、それらを活用し、社会の具体的な課題に対応できる総合的な能力を身につけることが求められています。

本学では、学生のみなさんが社会で求められる実践力を高め、将来にわたって主体的に生き抜く力を磨けるよう、1年次からの少人数制のゼミ教育を重視し、教員が担任として学習上の相談にも向き合う「アカデミック・アドバイジング」制度を設けています。また、教職員の顔が見える小規模感を強みとし、学習や進路、生活上の課題に対し、教職員一丸となり、学内外の専門家と連携しながら、手厚いサポートに努めています。さらに、多様な方式で学習が継続できるように学びのユニバーサルデザイン（UDL）も推進することで、すべての学生にとって学びやすい、個別最適な学習環境の整備に力を注いでいます。

京都文教学園は2024年度に創立120周年を迎える、これまでの歴史と温かいご縁に支えられながら、教育活動を推進してまいりました。来る2026年度には京都文教大学が開学30周年の大きな節目を迎えます。開学以来、本学が培ってきた地域との信頼関係や、地域と協働・連携したプロジェクト活動、地域のみなさまとの研究・教育の実績等を活かし、次の30年に向けて新たな挑戦を続けてまいります。学生たちにも、その温かいつながりの輪の中で、思い切り挑戦し成長してもらえるよう、さらなる取り組みを進めてまいります。

また、今後は、多様な学びのニーズに応えるため、2026年4月に大学附属の通信制高等学校（設置認可申請中）を開学する運びとなりました。これにより、本学園が創立当初より目指してきた「教育機会の提供」というミッションをさらに拡充し、すべての人が生涯を通じて学び、成長できるコミュニティの実現を目指してまいります。

学生の活動においても、コロナ禍以前のにぎわいが戻り、学園祭（指月祭）や課外活動、地域連携学生プロジェクトなどが活発に展開しています。学生食堂も、後援会の皆様のご支援も頂戴し明るくリニューアルされました。一方、様々な事情から困難な状況に陥る学生への学びの継続支援を含め、教育後援会の皆様からの多大なご支援を得ながら、学生たちの成長を全面的にサポートしてまいります。

今後とも、学生一人ひとりの成長を実現するために、本学の教育活動へのご理解と、ご支援・ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

京都文教大学 学長 森 正美



教育後援会会長よりご挨拶

教育後援会の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃より教育後援会活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

この度、教育後援会総会において、会長に就任いたしました片桐綾子と申します。会員の皆様のご協力を賜りながら、精一杯努めさせていただきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

会員の皆様に安心してお子様の学生生活を見守っていただけるよう、勉学、教育活動、就職活動、課外活動の支援や教育後援会のイベントを企画、開催しております。学科別懇談会を実施し、大学でもお子様の様子を知ることが出来ますのでぜひご参加ください。

お子様の充実した学生生活のために皆様と共にサポートしてまいりたいと存じます。これまで同様ご支援、ご協力よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝と京都文教大学益々のご発展を祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。

京都文教大学教育後援会 会長 片桐 綾子

就職部 就職進路課より

保護者の皆様方におかれましては、平素より進路・就職支援事業に格別のご支援・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。本学は学生一人ひとりが自立した進路選択を行い、納得のいく進路選択ができるよう企業への就職、大学院進学、公務員や教員採用などそれぞれに対応する具体的な対策プログラムも設置し、希望の進路の実現に向けて着実にステップアップできるようサポート体制を整えています。

以下、2024年度の卒業生進路状況を含め、本学の支援体制についてまとめさせていただきましたのでご一読いただければ幸いです。

1. 2024年度卒業生の進路就職状況

2024年度の就職率は97.2%（学部合計）となり、昨年度に引き続き企業の採用意欲が堅調に推移する中、就職率は昨年より0.5P高い数字となりました。多くの企業で内定を出す時期が早まっており、学生の皆さんには早期から就職活動に取り組む必要があります。その一方で、採用予定人数を確保しきれず、夏以降も採用活動を続ける企業が増え、就職活動は長期化する傾向も見られました。また、単に人数を確保するのではなく、将来を担う人材を厳選して採用する企業も多く見られます。このような状況だからこそ、これから社会で求められるのは、変化に柔軟に対応し、自分で考えて行動できる、自立した学生です。教職員一同、皆さんが自信を持って社会へ羽ばたけるよう全力でサポートしていきます。

本学の各学部の就職進路の内訳について総合社会学部は5コースの学びを活かして卸業・小売業、製造業、サービス、宿泊業・飲食サービス業を中心に各業界幅広く決まっています。臨床心理学部は医療・福祉の対人支援・援助的な領域において多く進んでおり、また臨床心理士・公認心理師をめざして大学院に進学しています。こども教育学部は専門職を活かして多くが学校教育・その他の教育、学習支援事業へ進んでいます。各学部のまとめは以下の通りです。

【進路まとめ】

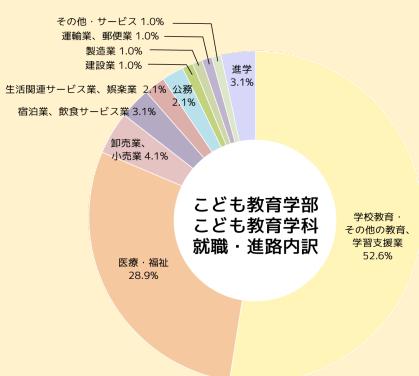
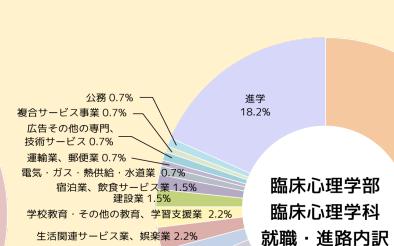
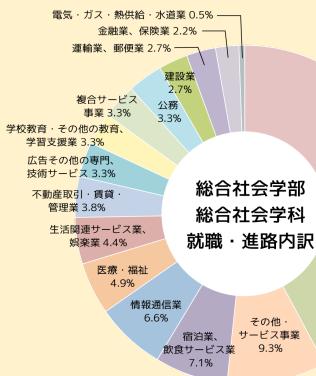
	総合社会学部	臨床心理学部	こども教育学部	計
進路決定率	182/205 (88.8%)	137/162 (84.6%)	97/101 (96.0%)	416/468 (88.9%)
就職決定率	182/188 (96.8%)	112/116 (96.6%)	94/95 (98.9%)	388/399 (97.2%)
進学決定率	0/0 (---%)	25/30 (83.3%)	3/3 (100%)	28/33 (84.8%)

*進路決定率=進路決定者(就職者+進学者)÷卒業者

※就職決定率=就職決定者÷就職希望者

*進学決定率=進学者÷進学希望者

【就職進路狀況】



2. 2025年度 4年次生の就職活動状況

採用スケジュールとして企業側の求人広報活動開始日は2025年3月1日以降、選考活動開始日は6月1日以降となっていますが、実態は3月1日以前から広報活動を行う企業や採用を目的としたインターンシップも増え、選考活動も年々早期化しております。一方で早くに内定が出てもなかなか決めきれず、内定を持ったまま就職活動を続けている学生もあり、就活の長期化も特徴となっています。

進路先が決まった学生は大学への報告・届出が必ず必要となりますので、ご自宅でもお声掛けください。本学では9月時点で3~4割ほどの学生が就職活動を続けており、これから公務員や大学院進学等から一般企業への進路変更の学生も含め続けます。大学に届く企業等の求人等もたくさんありますので、まだ進路先が決まっていなくてもご心配なさらず、まずは就職進路課のサポートを受けるようお声掛けください。就職進路課では学生へのメールやオンラインに加え、対面での進路就職相談や履歴書の添削、模擬面接の実施、求人情報の個別案内等、きめ細かな就職支援を続けておりますので、積極的に就職進路課を活用するようご助言いただけますと幸いです。

3. 2025年度3年次生 秋学期の進路支援について

本学では就職活動の早期化に備え、春学期から自己分析、履歴書・エントリーシートの書き方、業界・企業研究の仕方、グループディスカッション・面接対策等一通りのプログラムを行ってきました。秋学期から本格的に就職活動の準備がスタートしてきます。就職進路課では引き続き、就職活動対策として多くの講座やセミナー、イベント等を準備しています。3年次生には積極的に参加いただき、各企業が実施するオープンカンパニーや秋・冬インターンシップに参加し、本番に備えてもらいたいと考えています。

大学院志望者は募集要項の入手や過去問題の確認、オープンキャンパスに参加等、志望校選びや受験対策講座、ガイダンス等、計画的な対策を支援できるよう随時メールを中心に案内します。

公務員志望者は例年4月中旬から9月中旬にかけて職種毎に採用試験が実施されます。最終合格に向け、課外講座として春学期「公務員講座Ⅰ」<入門・初級>、秋学期「公務員講座Ⅱ」<中級>、通年「公務員講座Ⅲ」<上級・実践>を開講しており、計画的に準備を進めてください。

教員・保育士志望者は課外講座を受講するとともに【教職・保育福祉職サポートセンター】の積極的利用を促してください。

主なプログラムは以下の通りです。

就職進路課実施の主なプログラム

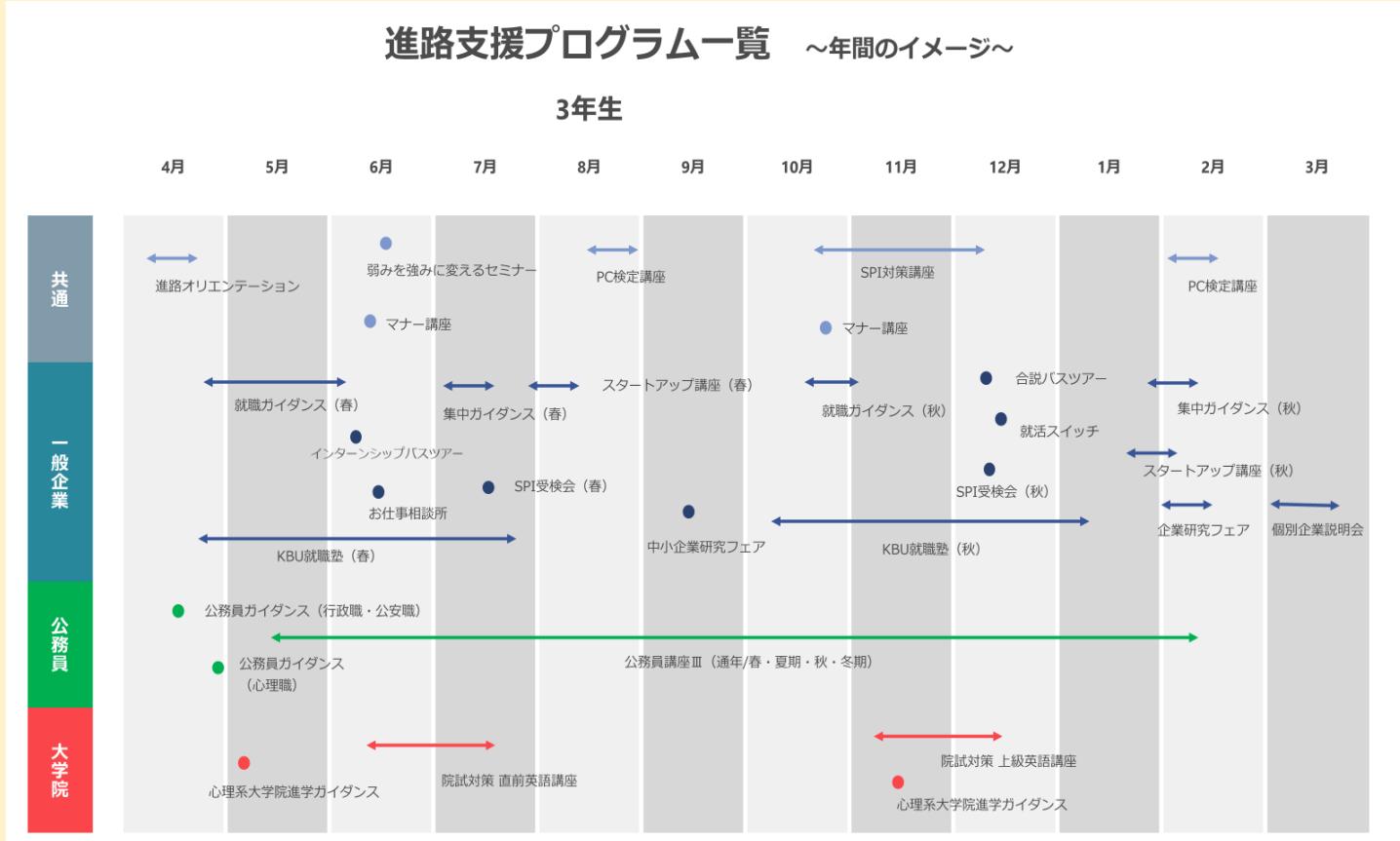
就職ガイダンス＆マナー講座

秋は10月に就職ガイダンスを2時間かけて実施します。就職活動のスケジュールに沿って、自己分析、業界・企業研究、エントリーシート、筆記試験対策、面接対策等をわかりやすく解説します。また、春学期にも実施した就活マナー講座も秋学期に開催し、社会人として基本的な知識から面接マナーまで実践を学びます。



KBU就職塾	<p>1クラス30名程度の小集団で就職活動に必要な力を養っていきます。3年次の秋学期に履歴書の作成からグループディスカッション、面接対策まで企業の選考に必要な知識の習得をめざします。大人数の「就職ガイダンス」とは違った「ゼミ・演習」方式で就職活動準備をさらに進めています。</p> 
就活スイッチ&合同企業研究フェア	<p>12月に学内で開催する就活イベントでは卒業生が活躍中、地元優良企業を中心に多様な業界から10社以上の企業をお招きします。前半は就活軸を整理するワークショップを行い、後半は業界・企業研究できる場を設けています。</p> <p>また毎年2月には学内で合同企業研究フェアを開催します。現場で働く人や人事担当者をお招きし、就職活動で必要な業界・企業・仕事研究を進めています。</p> 
※課外講座	<ul style="list-style-type: none"> ・公務員対策講座Ⅰ（春学期）、Ⅱ（秋学期）、Ⅲ通年開講 ・一般企業就職希望者向けSPI対策基礎講座（10月～12月） ・教員採用試験突破上級講座（2月） ・心理系大学院進学対策講座（11月～12月） <p style="text-align: right;">※申込は別途案内</p>

(年間プログラム一例)



就職進路課事務室は2025年4月より場所を光暉館1階（掲示板前）に移転しています。入りやすく相談しやすい環境を心がけ、就職だけではなく進学やその他の進路についても全面的にサポートしています。また学生からの相談対応につきましてはメールの他、WEB面談での支援も行っております。不安なことがございましたら気軽に就職進路課を訪ねるようご指導いただければ幸いです。引き続き皆様のご理解とご協力をお願い致します。

(就職進路課 オフィス)



**就職部長 兼 就職進路課長 森野 裕之
課長補佐 代崎 拓也
係長 松川美喜子
鈴木 裕翔
石橋 美鈴
室田 由紀**

学生部 学生課より

今秋のKBUキャンパスイベント（学生交流機会）・課外活動のご案内

【秋学期の報告＆予定】

日 程	イベント名	
8月25日（月） ～ 8月26日（火）	<p>還愚（げんぐ）セミナー</p> <p>於：栃社山誕生寺 閑谷学校 書寫山圓教寺</p> <p>「還愚（げんぐ）」とは、仏教用語で「自分のおろかさ・限界を自覚する」という意味があります。還愚セミナーでは、歩き遍路やボランティア活動を通して、自分の無知・弱さを改めて自覚し、自己の学生生活を考えるきっかけとなることを目的としています。今年度は、浄土宗開祖の法然上人誕生の地にある岡山の誕生寺（久米南町）と、論語を学べる閑谷学校（備前市）、そして天台宗別格本山の圓教寺（姫路市）を訪れ、それぞれ参拝や研修を行いました。閑谷学校では論語学習のほか、備前焼づくり体験もあり、また平岡学園長による「十牛図」のワークショップも行い、充実した研修旅行となりました。</p> <p>※17名参加（本学学生3名・教職員8名、佛教大学学生4名・教員2名）</p>   <p>主催：宗教委員会、学生課</p> 	

<p>10月～12月 (週3回)</p> <p>焼きたてパンは 10月・11月 (毎月1回)</p>	<p><u>パン・おにぎりの配付（学生自治会）</u></p> <p><u>焼きたてパンの配布（学生課）</u></p> <p>物価高の昨今、食費を抑えがちな学生に朝食を食べて授業を受けてほしいという目的で、パンやおにぎり、野菜ジュースを学生自治会とともに配布活動を続けています。</p>  	<p>所管：学生課</p>
<p>10月14日（火） ～隔週・火曜日 昼休みの30分</p>	<p><u>ランチョンミニセミナー開催</u></p> <p>於 サロン・ド・パドマ</p> <p>銀行系金融教育チーム、年金事務所、税務署より講師を招き、資産形成、国民年金学生納付特例制度について、租税教育、消費者金融トラブル、ブラックバイト等について学ぶ機会を設けています。以降、順次開催予定です。</p>	<p>参加対象：学生・教職員</p> <p>講師担当：三井住友銀行 SMBCコンシューマー ファイナンス、南年金事務所、労働局など</p>
<p>10月18日（土）</p>	<p><u>第19回西日本学生フィギュアスケート選手権大会</u></p> <p>個人（5-6級部門 総合2位）</p> <p>* 2026年1月 第98回日本学生氷上競技選手権大会（インカレ）出場決定</p>	<p>Kyoto Bunkyo Skate Academia</p> 
<p>10月14日（火） よりスタート</p>	<p><u>秋学期 衛生（環境整備）委員活動</u></p> <p>衛生委員を委嘱された学生による構内消毒作業や、キャンパス環境整備など。（アルバイト業務）</p>	<p>所管：学生課</p> 

<p>11月8日（土） 11月9日（日）</p>	<p>指月祭</p> <p>テーマ「cheerful」</p> <p>指月祭実行委員会より：</p> <p>「学生たちに、自由に大学祭を楽しんでもらい、地域の方々に日頃の感謝を伝えるとともに、高校生や近隣の方々に京都文教大学・短期大学の魅力を知ってもらうための指月祭です。</p> <p>テーマカラーは「イエロー」 明るい未来を想像できる色にしました。</p>	<p>大学祭実行委員会主催 (イベント・タレント・ステージ・模擬・情報宣伝・執行部・装飾部)</p> <p>※学生・一般の方 来場可</p> <p>ステージ発表・bingo大会(学生自治会主催)、俳優トークショー(学友会主催)、教員と学生の研究発表、地域(消防・警察、企業協賛)のイベント・模擬店、キッチンカーの出店。留学生報告、こども教育学科英語スピーチコンテストなど</p>
<p>11月～1月 (月1回)</p>	<p>学内居場所支援の活動がスタートします（予定）</p>	<p>主催：アクセシビリティ支援室CSW(キャンパスソーシャルワーカー)</p>
<p>9月～講習開始</p>	<p>アクセシビリティリーダー2級講習</p> <p>* 試験は12月実施</p> <p>受講生数 26名 (学生・研究生19名 教員1名 職員 6名)</p>	<p>主催：アクセシビリティ支援室</p>
<p>11月1日（土） 11月2日（日） 11月8日（土） 11月9日（日）</p>	<p>第11回女子硬式野球西日本大会</p>	<p>主催：中四国女子硬式野球連盟</p> <p>参加：女子硬式野球部</p>
<p>11月19日（水） 12月19日（金） 2月18日（水） 13-16時</p>	<p>学外支援機関の社会移行支援相談会の開催</p> <p>* 学外機関は 社会福祉法人南山城学園 (若年者等就労支援拠点サザン京都)</p>	<p>主催：アクセシビリティ支援室(社会移行支援アドバイザー)</p>

活動の模様は、次号のニュースレターにてご報告いたします。

【春学期のご報告】

日 程	イベント名	
4月～5月	<u>4月3日 新入生歓迎会・クラブ・サークル紹介</u> <u>5月8日 下宿生のつどい</u> 	学生自治会 中央執行委員会 クラブ連合協議会
5月16日（金） ～ 5月19日（月）	<u>第10回 全日本大学女子硬式野球選手権出場</u>	女子硬式野球部
7月4日（金）	<p>涼暮祭</p> <p>大学祭（指月祭）のプレイベントとして七夕の季節に開催されてきた「涼暮祭」。今年も地域の小学生、幼児（ご家族）にも参加してもらえるよう放課後スタートとして開始時間を繰り上げた1日開催を企画しました。</p> <p>同唱館のみを会場とし、小規模ながらキッチンカーを3台呼び、おかし釣り、ボーリング、輪投げ、ストラックアウト、七夕アートなどの楽しい催しを用意し、賑やかな夏祭りとなりました。大学祭実行委員会は、熱中症等の対策を講じつつ、参加者との楽しい時間を作りあげました。</p> 	主催：大学祭実行委員会 ※学生・一般の方 来場可
5月19日（月） 5月20日（火） 5月21日（水） 5月28日（水）	<p><u>新入生対象「メンタルヘルス研修会」</u></p> <p><u>ランチョンミニセミナー（心理教育）</u></p>	主催：学生相談室 ※全学生対象

6月12日（木）	<u>ランチョンセミナー（熱中症対策）</u>	主催：健康管理センター ※全学生対象
8月17日（日）	<u>小野まつり おの恋おどり</u>	参加：風竜舞伝 (ひまわり賞受賞) 文舞蘭
8月24日（日）	<u>「第32回太道 西日本選手権大会」</u> <u>「第30回太道選手権大会」出場（広島）</u>	参加：太道部
8月25日（月） ～ 8月27日（水）	<u>全日本大学女子硬式野球選手権記念大会（和歌山）</u>	参加：軟式野球部
8月20日（水） ～ 8月25日（金）	<u>全日本女子硬式野球選手権大会</u>	参加：女子硬式野球部
8月30日（土） ～ 10月4日（土）	<u>2025年度 関西学生バスケットボールリーグ戦</u>	参加：男子バスケットボール部
9月8日（月）	<u>学生サポーター対象研修</u> <u>一障害特性の理解と学習支援一</u>	主催：アクセシビリティ支援室 コーディネーター&社会移行支援アドバイザー

社会連携部 フィールドリサーチオフィスより

地域連携・社会貢献の活動の窓口・コーディネート機関として、学生の地域連携・企業連携・高大連携活動や地域の活性化や課題解決を目的とした研究活動を推進しております。また心理臨床センター・産業メンタルヘルス研究所・地域協働研究教育センターの事務運営のほか、近隣に2カ所あるサテライトキャンパスの企画・運営・管理や、宇治市高齢者アカデミーの運営、公開講座やイベント等を実施し、地域と学生・教職員の相互連携、協働活動を支援しています。

1. 京都文教大学 地域連携学生プロジェクト2025の活動報告

京都文教大学では、地域を対象とする学生の自主的活動の中から、地域特性を活かしつつ、成果が期待できる取組みを「地域連携学生プロジェクト」として選定し、支援、助成しています（2007年度～2025年度採択プロジェクト数：延べ118団体）。2025年度も、学内を対象に4月に申請を募り、その後6月に採択選考会を実施しました。選考会では、近隣自治体や高校教諭、地元事業者の方をゲストコメンテーターとしてお招きし、申請プロジェクトへの質問やアドバイスをいただき、審査は、京都文教大学地域協働研究教育センター員と地域連携委員の教員が担当し、可否を決定しました。2025年度は以下の6団体が採択され、活動に取り組み、年度末に実施する成果報告会での発表と事業報告書を提出いたします。地域の皆様のご協力をはじめ、教育後援会様の多大なご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

○ 宇治☆茶レンジャー

- ◎ 活動期間：2010年度～
- ◎ アドバイザー教員：森 正美（総合社会学部実践社会学科教授）
- ◎ 事業実施地域：宇治市、京都市伏見区、京都府内や府外の茶産地
- ◎ 地域パートナー（連携先）：公益社団法人京都府茶業会議所、京都府茶協同組合、中宇治エリアのお茶屋さん
- ◎ メンバー数：14名
- ◎ 活動内容：
急須で淹れる宇治茶の美味しさや楽しさを伝えることを目的に、学生たちが宇治茶を学びそこで得た魅力を発信する取組を行っています。宇治市や伏見区、久御山町等で行われるイベントで、お茶を淹れるコツを伝えるワークショップや、数種類のお茶を飲み比べその茶種を当てる「みんなでお茶当て☆茶レンジ（茶香服）」を行うなど、宇治茶に親しむ催しを企画しています。また、毎年実施している「宇治茶スタンプラリー」は、例年1,000名以上の参加者がある人気イベントとなっており、今年度も2月に実施する予定で、ご協力いただくお茶屋さんと調整を進めています。



○ 商店街活性化隊しあわせ工房CanVas

- ◎ 活動期間：2014年度～
- ◎ アドバイザー教員：片山 明久（総合社会学部総合社会学科教授）
- ◎ 事業実施地域：宇治市（宇治橋通り商店街）
- ◎ 地域パートナー（連携先）：宇治橋通り商店街振興組合、宇治市秘書広報課、宇治市観光振興課、公益社団法人宇治市観光協会
- ◎ メンバー数：24名
- ◎ 活動内容：
宇治橋通り商店街振興組合の公認をいただき、宇治橋通り商店街の活性化活動に取組んでいます。商店街で開かれる「スマイルサタデー（8月）」や「わんさかフェスタ（10月）」では、子どもを対象にしたワークショップやスタンプラリーを企画し、お祭りを盛り上げています。また、宇治市との連携では、昨年度は大河ドラマにあわせ源氏物語をテーマにしたまちあるきを実施し、今年度は秘書広報課が進める「むらさきみどりいとおいし 食のいろどりキャンペーン」のコラボ企画として、11月に中宇治にある4商店街（会）を巡るクイズラリーを行います。



○ KASANEO

- ◎ 活動期間 : 2018 年度～
- ◎ アドバイザー教員 : 黒宮 一太 (総合社会学部実践社会学科准教授)
- ◎ 事業実施地域 : 宇治市
- ◎ 地域パートナー (連携先) : 宇治市健康長寿部長寿生きがい課、北楳ハーモニー、京都府立京都すばる高校、うじテレビ
- ◎ メンバー数 : 27名
- ◎ 活動内容 :

「ファッション」を通じて幅広い世代が交流できる場を提供することを目的に、結成されたプロジェクトです。着なくなった服（若い頃に着ていた服）を「想い出」と共に、高齢者から提供いただき、それに学生が今の感覚で着こなしを考え、ファッションショーや展示会、雑誌などで紹介しています。萬福寺で行われた「エンジョイフェス夕」では、国宝「大雄宝殿」の前に設置された特設ステージにてファッションショーを行いました。高齢者を対象とする催しが多い中、より広い世代との交流を目的に子どもや親子と行う染物のワークショップも実施しており、今年度は、小倉老ノ木集会所やイオンモール久御山でのイベントに参加しました。



○ KminK

- ◎ 活動期間 : 2022 年度～
- ◎ アドバイザー教員 : 黒宮 一太 (総合社会学部実践社会学科准教授)
- ◎ 事業実施地域 : 久御山町
- ◎ 地域パートナー (連携先) : 久御山町総務部企画財政課、久御山町内の自治会・町内会、KUMIDAN
- ◎ メンバー数 : 48名
- ◎ 活動内容 :

久御山町役場と連携し、まちづくりや自治会活性化に取り組んでいます。自治会や町内会の困りごとについて、学生が住民と一緒に考え解決策を探ったり、町や自治会主催のワークショップやイベントに参加し、まちづくりについての意見を交わしたり、イベント運営のサポートをするなど久御山町の一員として活動を進めています。今年度は、新たに始まった宇治川沿いの河川敷活用を考えるワークショップに参加し、そこで行われるトライアルイベントにも継続的に参加しています。11月には、京都府立久御山高校と連携した、主催イベント「くみやまスマイルフェスティバル2025」があり、現在それに向けての準備を進めています。



○ lemon tree

- ◎ 活動期間：2023年度～
- ◎ アドバイザー教員：平尾 和之（臨床心理学部臨床心理学科教授）
- ◎ 事業実施地域：宇治市
- ◎ 地域パートナー（連携先）：宇治市健康長寿部長寿生きがい課、
宇治市福祉サービス公社、京都府立洛南病院
- ◎ メンバー数：30名
- ◎ 活動内容：

宇治市と本学とが協働で進める「認知症の人にやさしいまち・うじ」を実現するための取り組み「れもねいど」に関わってきた学生たちが、立ち上げたプロジェクトです。大学で定期的に行われる「れもねいどグループミーティング」に参加し、認知症当事者や家族、支援者との交流を深め、そこで出た当事者の声を活かしたイベント企画をしています。また、地域で開かれるイベントに当事者とともに参加し、子どもや親子に対し、楽しみながら認知症への理解を深める取り組みを進めています。



○ ビジネスクリエイトラボ

- ◎ 活動期間：2025年度～
- ◎ アドバイザー教員：舛井 雄一（総合社会学部実践社会学科教授）
- ◎ 事業実施地域：宇治エリアを中心とする京都府内
- ◎ 地域パートナー（連携先）：宇治商工会議所、和頌堂（そばぼうろの製造）
- ◎ メンバー数：15名
- ◎ 活動内容：

地域の中小企業の課題を知り、大学生の目線でその解決方法を探り、企業と共に課題の解決を進める目的に、今年度新たに発足した団体です。現在は、京都市内にあるそばぼうろの製造を行う和頌堂より、そばぼうろの認知度を上げたいという課題をいただき、オリジナルパッケージの作成や新商品の試食アンケートの実施、イベントでの販売サポートなどを行っています。また、地域イベントに参加し、ゲームと販売を組み合わせた子どもたちにも親しみやすいブース出展を通して連携企業のPRを進めています。



2. 高大連携・接続

本学では、さまざまな高校と連携をし、高校生と大学生と一緒に学び合うことで、相互の気づきや成長を促す機会を設けています。また高校と大学が「今後の社会を担う人材とはどういったものか」「よりよい教育とは何か」を一緒に考え、実践することで高校教育と大学教育の「接続」も進めています。特に、高校の進路学習や「総合的な探究の時間」などの実践的な学びにおいて、連携を進めています。具体的な取組については、下記の本学特設サイトにて発信しておりますので、是非ご覧ください。



[【高大連携・高大接続特設サイト】](#)

3. 企業・行政等の連携

京都府、宇治市、久御山町、城陽市、京都市伏見区、精華町、宇治商工会議所、城陽商工会議所、久御山町商工会、一般社団法人京都中小企業家同友会と包括連携協定を締結しています。また、本学独自の地元企業、事業所、行政、経済団体等とのネットワーク「京都文教ともいきパートナーズ」には、104事業所（2025年10月現在）の登録があります。まちづくり活動や地域における調査・研究、人材育成、産業振興、子育て支援、生涯学習の推進等、さまざまな分野において連携し、共に「ともいき（共生）キャンパス」の創造に取り組んでいます。

2025年度は総合社会学部総合社会学科に新たにスポーツ・健康コース、食マネジメントコース、公務員コースが開設され、京都府、京都市、宇治市を中心とした自治体や企業・団体との新たな取り組みもスタートしました。

<スポーツ・健康コース>

9月27日（土）、サンガスタジアム by KYOCERAで開催された「京都キッズスポーツフェスタ2025」に、本学スポーツ・健康コースの1期生がスタッフとして参加しました。子どもたちの笑顔に囲まれながら、スポーツを通じた地域交流やイベント運営の実践を経験する貴重な一日となりました。本コースでは、今年度より「京都スポーツ医・科学サポートコンソーシアム」に参加し、京都府が進める産学公連携プロジェクトにも関わっています。今後も、学びを地域のスポーツ振興や健康づくりに活かす活動を積極的に展開していきます。



<食マネジメントコース>

10月2日（木）・3日（金）の2日間、けいはんなオープンイノベーションセンター（精華町）で開催された「京都フードテックエキスポ2025」にブースを出展しました。展示では、食マネジメントコースの1期生が中心となり、地域と連携した学びの成果を紹介。短期大学から引き継いだ「京のネオおせち開発プロジェクト」や、大阪電気通信大学との「機能性食品開発プロジェクト」など、学生たちの研究・実践の様子を発信しました。来場者には、AR（拡張現実）体験やリーフティーの試飲などを通じて、学生のアイデアに触れていただき、多くの方との交流が生まれました。さらに、初日に行われた「京都食ビジネスプラットフォーム 開発商品コンテスト」では、「京のネオおせち」が最優秀賞を受賞。学生たちの日頃の努力と、地域とともに学び挑戦する姿勢が高く評価されました。



4. 各附置機関 紹介

京都文教大学心理臨床センターは地域に根ざした市民サービスを提供する場として開設された心理相談・研究機関です。また本学の臨床心理学部・臨床心理学研究科の学内実習機関も兼ねており、教員や現場の専門家の指導・アドバイスを受けながら先輩の大学院生がカウンセリングや発達検査等を日々実践しております。

京都文教大学地域協働研究教育センターは「地域における本学の教育、研究、社会貢献を一体化し、地域・学生・教職員を巻き込んだ総合的な取組を推進し、その成果を本学の教育活動や地域の発展に還元、寄与することを目的として2014年4月1日「地域協働研究教育センター」として設立され、教育・研究・社会貢献活動に取り組んでおります。

産業メンタルヘルス研究所は、産業メンタルヘルスに臨床心理学の知見を活かすための研究所として、2008年に設立されました。職場のメンタルヘルスに関する調査・研究、プログラムの開発・提供、大学院教育の中で高度専門職業人の育成に取り組んでいます。また、各種講座の開講を通して、臨床心理士・公認心理師をはじめとする産業メンタルヘルス分野の専門職が、職種の違いを越えて研鑽する機会を提供すると同時に、いきいき働く職場をつくるヒントを産業メンタルヘルスの見地から提案する公開講座を企業・行政の人事・総務担当者、経営者向けに開講しています。

5. 公開講座・イベントのご紹介

京都文教大学では学部特性を活かした公開講座をはじめ、京都文教大学教員と自治体職員、団体・企業、地域住民が研究員として参画し地域課題解決に取り組む地域志向研究による公開講座（ともいき講座）や宇治茶の世界文化遺産登録に向けて京都府と共に催する「宇治茶文化講座」、他にも本学学生団体によるイベント情報に関するご案内や、教員の講師派遣依頼について、京都文教大学地域協働研究教育センターHP（QRコード参照）にて掲載していますので、是非ご覧ください。

☆ 公開講座・イベントピックアップ ☆

詳細は『京都文教大学地域協働研究教育センターHP「地域連携＆イベント」』をご参考ください。

- (1) 「宇治茶文化講座2025～多様な視点から見る宇治茶の現在地」
コーディネーター：森正美（京都文教大学 学長）

第1回 「『永谷宗円が煎茶を発明した』は何であったのか。」
講師 橋本 素子 様（京都芸術大学非常勤講師・実践女子大学非常勤講師）
日時 2025年11月8日(土) 13:30-15:30
■参加方法・定員：
B.オンデマンド動画の視聴（定員無し ※Bのみ2026年2月20日まで受付）

第2回 「帳簿による明治時代の宇治茶の仕入」
講師 中川 博勝 様（精華町教育委員会古文書等調査員）
日時 2025年12月10日(水) 13:00-15:00
■参加方法・定員：
A.京都文教学園宇治キャンパスにて対面参加（30名）
B.オンデマンド動画の視聴（定員無し ※Bのみ2026年2月20日まで受付）

※本講座の実施形態は、対面（京都文教学園宇治キャンパス）及びオンライン配信
※1回から参加可。参加無料・要申込。

- (2) 「ともいき（共生）フェスティバル2025」
開催日：2025年12月6日（土） 10:00-15:30
会場：京都文教学園宇治キャンパス
内容：本学学生や教員によるブースをはじめ、地元企業や企業と学生のコラボブース、高校生によるブースを実施。他、「宇治茶文化講座2025 スピントブース」として、「京都文教大学地域連携学生プロジェクト宇治☆茶レンジャーによる子どもお茶当て茶レンジ」や、京都文教短期大学茶道部による「お抹茶体験」等も行います。

※参加無料（一部有料ブース有り/飲食等の販売有り）・申込不要。

- (3) 「認知症とともに生きる－「認知症の人によるやさしいまち・うじ」の実現に向けて－」
司会・コーディネーター：平尾和之（京都文教大学臨床心理学部 教授）
日時：2025年12月6日（土） 13:00-14:30 ※参加無料/申込み不要
場所：京都文教学園宇治キャンパス 弘薈館101教室
内容：認知症当事者と支援者にご登壇いただき、認知症とともに生きる経験を語っていただくとともに、私たちがどのようなアクションを起こしていくのか、みなさんと一緒に考えたいと思います。

【公開講座・イベント・講師派遣に関するお問い合わせ先】

京都文教大学・短期大学 社会連携部フィールドリサーチオフィス
電話：0774-25-2630 / メール：fro@po.kbu.ac.jp



教務部 大学教務課より

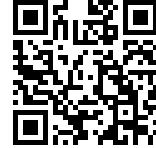
1. 成績発表のお知らせ

本学では、Webポータルサイト「UNIVERSAL PASSPORT（ユニバーサル・パスポート、通称：ユニパ）」にて成績及び学期期間中の個人時間割をパソコンやスマートフォンからいつでも確認することができます。さらに大学からのイベントや講演会等の各種お知らせ機能も追加され、メールでお知らせを受け取ることもできます。

ユニパへのアクセスにはログインID・パスワードが必要になります。ID・パスワードは、入学年度5月頃に本学よりお送りいたしましたハガキに掲載しております。

〈成績・時間割確認方法〉

- ①保護者向けサイト URL goo.gl/C7H7Sm または右QRコードよりアクセスしてください。
- ②保護者向けサイトの「成績・時間割確認の方法」より、ユニパにアクセス、ログインいただけます。
- ③メールのお知らせ機能は、ユニパへログイン後、右上の〔setting〕をクリック、左上の〔メール設定〕をクリックし、受信メールアドレスを入力してください。



※成績発表後にいくつかの正当な理由（再試験結果の反映、休学による成績削除など）によって発表された成績が変更される場合があることをご承知おきください。

※スマートフォンの場合は「スマートフォンはこちら」をクリックせず、ID・パスワードを入力してログインしてください。

※パソコン・スマートフォン等のインターネット接続環境をお持ちでない方はご相談ください。個別で郵送させていただきます。ただし、学期ごとの申し出となります。

春学期成績発表…8月下旬／秋学期成績発表…3月上旬

ご不明な点がある場合は、大学教務課までご連絡ください。

＜お問い合わせ先＞ 京都文教大学 教務部 大学教務課

電話 : 0774-25-2426 / E-mail : educat@po.kbu.ac.jp

2. 教育改善の取り組みについて

前回のニュースレターにも書かせていただきましたが、本学では、入学していただいたさまざまな学生の皆さんの学びを支えるために、学びのユニバーサルデザイン（UDL）を推進しています。UDLとは「学習者のさまざまなニーズに対応できるような柔軟な学習の目標、方法、教材・教具、評価の方法をあらかじめ提供する」というものです。この考え方方にしたがって、まず本学で今年度から取り組み始めているのは、授業実施形態の多様化と、講義系対面授業の録画配信です。

授業実施形態では、従来の「対面授業」に加え、「オンライン授業（オンデマンド型・同時配信型）」を一定程度取り入れるとともに、「対面授業」と「オンライン授業」を併用し学生の皆さんができるだけ選んで受講できる「ハイフレックス型」というスタイルの授業を取り入れています。また、対面授業についても、講義系の科目は原則録画し、授業後に受講生に配信していますので、やむを得ず欠席してしまった場合でも授業内容をフォローでき安心ですし、出席した場合も復習用としてあるいは課題をやるときの参考として見直すこともできます。

ところで、こうしたUDLの取り組みを、学生の皆さんはどうのように感じているのか、また活用してくれているのか、等について確認すべく、春学期末にアンケートを取らせていただきました。その結果、多くの学生が受講スタイルを選べることにメリットを感じてくれており、「自分のペースで学べる」、「体調不良時に助けられた」、「バイトと両立しやすい」、「遠方からの通学にはありがたい」、「授業に置いていかれるということがなくなつた」、等々のコメントが寄せられました。

現在、本学の教育開発推進センターが中心となり、このアンケートに加えて、単位修得状況や成績評価の変化等、客観的なデータも確認しながら、UDLの効果について検証を進めているところです。詳しい検証はこれからなのですが、まず全体的な単位修得状況について問題がないことは確認しており、今後は、学科、学年、科目ごとの特性、さらには学生個々のさまざまな属性等もふまえた分析も進め、本学のUDLが個別最適な学びを提供できる取り組みとなるよう、改善を続けていきたいと考えています。

以上、本学のUDLの取り組みについて、前回にひきつづき、その後の経過もあわせてご紹介させていただきました。本学では、こうした取り組みが学生一人一人の個別最適な学びにつながるよう、教職員が面談を通じて履修計画等について支援する「アカデミック・アドバイジング」にも同時に力を入れています。たとえば、履修登録時には、学生がどのような受講スタイルの科目を履修しようとしているのかを担任が確認し、その学生の学修歴や特性等をふまえた履修指導を行います。オンデマンド型の授業を履修する場合、やはりある程度自律的・計画的に学習を進める必要がありますので、学期途中で課題提出が滞ったりして、意欲も失い、単位修得を放棄してしまうといった学生もいたりします。そういう学生にはなるべく対面型授業の履修を勧めたり、あるいはオンデマンド型授業を履修する場合でも、常に担任が課題提出状況等を見守りつつ、必要に応じて助言・指導を行ったりします。このように「アカデミック・アドバイジング」についても、教職員が協働して最善を尽くしているところではありますが、ご家庭におかれましても、本学のこうした取り組みについてご理解を賜り、学生さんの学びに関心をもつて共に支えていただけると幸いです。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

教務部長／教育開発推進センター長 河本 直樹

図書館だより

宇治キャンパス内には、図書館が三館（普照館・至道館・常照館）あり、約34万冊の蔵書を利用することができます。

学生は、三館それぞれのもつ資料の特徴や館内の雰囲気、開館時間の違いを上手く活用し、日頃の自習や居場所として利用しています。

資料の閲覧・貸出だけではなく、電子ブックの充実、DVDの視聴、パソコンの利用、グループ学習での利用など、学生のさまざまな図書館利用に対応するべく環境を整えています。

また、新入生対象図書館ガイダンスやゼミ単位等での図書館利用講習会の実施、学生が大型書店で自ら本を選ぶ企画「学生選書ツアー」の開催、本学教員の著書・推薦図書コーナーや授業の課題・就職活動・資格取得に役立つ図書コーナー等を適時設けるなど、少しでも学生にとって役立つ図書館であるよう日々工夫しています。

さらに所蔵している視聴覚資料の紹介を兼ねた映画DVDの上映会などを学生課と共に催し、大学・短期大学、学部・学科を超えて楽しめる交流の場となるような企画も展開しています。

これらの様々な情報は、キャンパス内での掲示ポスターだけでなく、図書館情報システムを活用した情報発信に加え、図書館情報誌「あーゆす」、図書館公式X（旧ツイッター）などでそれぞれの特徴を生かしたタイムリーな発信にも努めています。年2回発行の図書館情報誌「あーゆす」では、教職員の寄稿だけでなく、学生ライターも募集しており、これまで多くの学生が寄稿してくれています。バックナンバーは、図書館ホームページからもご覧頂けますのでぜひご一読ください。

今後も学生が安心して利用できるよう図書館運営に努めて参ります。

保護者の皆様におかれましても、地域に開放しております本学図書館をご利用頂きますようご案内申し上げます。

図書館利用証のお申し込み、その他詳細は図書館ホームページをご覧ください。

<https://opac.library.kbu.ac.jp/drupal/>



普照館 1階 図書館



教育後援会より補助を受け、
購入、配架したブラウジングエリア

蔵書数（3館合計）	2025年3月31日現在
一般図書	339,234冊
うち 絵本・新書・文庫など	63,626冊
うち 電子ブック	747冊
視聴覚資料（DVD・VHS等）	9,158点
雑誌・新聞等	3,184種

図書館長 鵜飼 正樹

— 京都文教大学 INFORMATION —

保護者の皆様からの声を受け付ける専用メールアドレス

京都文教大学では、教育後援会の皆様からの声を受け付ける専用のメールアドレス(全て半角)がございます。

hogoshanokoe@po.kbu.ac.jp

※ 匿名でのお問い合わせでは対応ができないことがあります。お子様の学部・学科・学年・氏名を記載の上、お問い合わせください

ファミリー制度について

京都文教学園では、本学園で学ばれたみなさまと結ばれた『縁』を大切に、さらにその『縁』をつなぎ広めていきたいと願い、ファミリー制度を設けています。2026年度（令和8年度）入学試験の受験を考えておられる方で、以下に該当する方がおられましたら、是非ご検討ください。

制度の内容	以下に該当する入学生に対し、入學金のうち30,000円を減免します。 本学園の建学の精神に深く賛同する者で、次の(1)～(2)いずれかの条件を満たす者。 (1) 3親等以内に本学園設置校の卒業（園）生がいること。 ※ 3親等の範囲 - 入学生的の父母・兄弟姉妹・祖父母・曾祖父母・伯父伯母・叔父叔母 (2) 兄弟姉妹が本学園設置校（園）に在籍していること。
制度対象校	京都文教大学院・京都文教大学・京都文教高等学校・京都文教中学校
申込方法	校種により適用条件・手続き方法が異なります。 お手数ですが当該校にお問い合わせいただくか、 ホームページ にてご確認ください。
申込期限	入学予定年度の前年度の3月31日【必着】
お問い合わせ	京都文教大学 総務部総務課 電話：0774-25-2400（受付：平日9:00-17:00まで）

事務局お問い合わせ先一覧（受付：平日9:00-17:00まで）

部　署　名	電話番号
総務課 教育後援会、ファミリー制度、校友会（同窓会）についてなど	0774-25-2400
教務課 授業に関すること 履修登録・時間割・試験・成績、証明書など	0774-25-2426
学生課 学生生活に関すること 課外活動・奨学金・休退学・施設物品借用・学生相談・障がい学生支援・留学など	0774-25-2497
フィールドリサーチオフィス 地域連携・公開講座、高大連携に関する事	0774-25-2630
就職進路課 進路、就職活動、資格・講座など	0774-25-2524
アドミッションオフィス 受験の相談、入試イベント、オープンキャンパス等に関する事	0774-25-2488
図書館事務室 図書館利用、資料・蔵書について	0774-25-2489
研究支援オフィス 研究支援について	0774-25-2494

2025年度 京都文教大学教育後援会 事業計画

1. 会議・研修

- ・2025年5月17日（土） 第1回 役員会、第30回 総会、
講演会「親と子の関係が培う子どものメンタルヘルス
－子どもがはばたいていくために－」大橋良枝（臨床心理学部 教授）
学科別懇談会
- ・2025年11月 進路講演会、学科別懇談会

2. 各種事業

（1）課外活動補助

- ①課外活動補助
合宿・試合等の顧問引率費、課外活動にかかる経費、共同使用となる物品購入等の費用の補助。
- ②課外活動特別補助
クラブ9団体（上限10万円）、同好会1団体（上限5万円）への活動費用の補助。
- ③課外活動遠征費
課外活動での遠征にかかる費用補助（バス賃借料等）。課外活動を行う団体・個人に申請者を拡大（交通費等補助）スポーツ・文化・多文化（異文化）交流等の課外活動支援をはかる。
- ④行事企画費
還暦セミナー（災害ボランティア活動）にかかる交通費、宿泊費、消耗品等に対する補助。今年度は、能登地震被災地ボランティアを目的とする。
また、学外研修・国際交流イベントの学生交通費補助、学生向け消費者教育・消費者金融教育等の学外講師料、消耗品費の補助。
- ⑤地域連携学生プロジェクト
地域で学び、地域に役立つ視点と地域の実情を学び、地域社会に貢献できる能力を習得するため、京都府南部地域を中心としたフィールドでアドバイザー教員・担当スタッフの支援のもと学部・学科を超えた学生が自主的活動をする課外プロジェクトにかかる費用補助。今年度は6団体への補助。また、学生が地域をテーマにした課外活動を行う際の活動費への補助。
浄土宗宗門関係大学である東京圏の淑徳大学、埼玉工業大学との単位互換制度等における東京圏並びに京都で実施される学外での宿泊や移動を伴うプログラムへの活動補助費。「全国まちづくりカレッジ2025 in 香川」参加旅費等への補助。

（2）就職進路支援

- ①ラーニングコモンズ運営費
ラーニングコモンズのチューター人件費の補助。
- ②課外講座開講費
就職進路につながる資格講座、公務員講座（中級・上級）、就職関連課外講座、大学院進学対策講座等の進路支援講座の費用補助。
- ③就職キャリア支援 学生相談カウンセラー補助
学生相談カウンセラーの業務委託補助。
- ④S A（スクーデント・アシスタント）雇用費
2年次生以上の在学生が授業内で下級生に対して、教員指導の下グループワークの進行補助等の業務を行い、社会人基礎力の養成に資する取り組みへの費用補助。
- ⑤「京都文教ともいきパートナーズ」事業のコーディネート業務委託補助
本学学生キャリア支援を目的とした企業開拓やコーディネート業務（「京都文教ともいきパートナーズ」業務）を担当するコーディネーターの業務委託補助。
- ⑥アントレプレナーシップ育成活動補助
本学学生、企業と高校との3者連携による商品開発と生産、販売体験等の費用補助。近隣地域イベントにおける本学学生の販売体験、高校等（京都府北部等の遠方含む）における活動発表等にかかる交通費、消耗品費等に対する補助。

（3）学生生活支援

- ①学生相談室補助
学生相談室カウンセラーの人件費の一部を補助。
- ②トレーニングルーム運営費
学内トレーニングルームにおいて、効果的なトレーニングの指導および管理等を行う常駐のトレーナー配置、トレーニングルーム機器の保守・修繕・利用予約システムのデータ管理費等に係る費用補助。
- ③災害・安全対策費
災害対策の一環として、非常用保存食・飲料水等の備蓄品購入費用補助。緊急時に備えて在学生分を学内で保存、未使用分の一部を今年度の卒業生へ記念品として贈呈する。
また、学内のバイク駐輪場出入口の誘導、向島駅のスクールバス乗り場誘導、学内見回り等の安全対策にかかる費用の一部に対する補助。

（4）教育環境整備補助

- ①学生教養図書購入費
学術書以外で、学生の教養となる一般図書・雑誌購入にかかる費用の補助。

（5）奨学費

- ①京都文教大学教育後援会奨学金
家計急変による学費支弁困窮学生へ給付を行う就学支援制度。
- ②留学生支援費

本学の提携先である海外の大学（予定：米国、カナダ、中国、韓国に所在する大学）への留学や研修参加に対しての費用補助。

（6）式典・行事補助

①卒業式関連経費

卒業式終了後に実施される記念祝賀会にかかる費用補助。

②卒業記念品

卒業生に贈呈する卒業アルバム代に対する補助。

（7）教育後援会運営費

教育後援会の運営に直接かかる経費に対する補助。（役員会の会議費、印刷費、送料等）

（8）予備費

※特別積立金（毎年100万円積立）は昨年度に引き続き、今年度もなし。

3. 特別積立金

※2025年度は特別記念事業（創立周年事業等）は予定されていないため、積立金からの特別支出はなし。

以上

2025年度 第1回 京都文教大学教育後援会 役員会 議事録

1. 日 時 2025年5月17日（土） 午前11時～12時

2. 場 所 京都文教大学 常照館1階 第2会議室

（1）会長挨拶（勝田会長）

（2）学長挨拶（森 正美・名誉会長）

（3）出席者紹介（上野副会長）

（4）近況報告 資料等をもとに上野副会長より大学の近況報告があつた。

（5）2024年度 事業報告（案）・決算報告（案）（押領司会計）

配布資料に従って事業報告（案）と決算報告（案）が行われた。

（6）2024年度 監査報告

監事より決算が正しく行われているとの監査報告があり、事業報告と合わせて拍手により承認された。

（7）役員選出（敬称略）

【会長、副会長】教育後援会規約第8条および第9条に従って役員会で選出された方の承認

会長〔新任〕片桐 綾子 副会長〔新任〕増元 寛和・〔再任〕上野 泰弘（事務局長）

【監事】教育後援会規約第8条および第9条に従って役員会で選出された方の承認

〔再任〕西尾 有紀・〔新任〕山本 通章

【幹事】教育後援会規約第9条2項により会長より委嘱

〔再任〕北村 隆信・〔再任〕佐藤 綾・〔再任〕牛瀬 真・〔再任〕古川 マキ

【会計】教育後援会規約第9条3項により事務局長より推薦された2名に会長より委嘱

〔再任〕押領司 哲也（総務部長兼図書館・研究支援オフィス課長）・〔新任〕山端 慎也（総務課長）

（8）新旧役員紹介（上野副会長）

役員名簿参照タブ

（9）2025年度 事業計画（案）、予算（案）（押領司会計）

配布資料に従って事業計画（案）、予算（案）について説明と提案があり、審議の結果、承認された。



以上を持って議事を終了し、今年度、必要であれば役員会を開催することが確認され、12時に閉会となった。

以上

2025年度 京都文教大学教育後援会 総会

1. 日 時 2025年5月17日（土） 午後13時～14時

2. 場 所 京都文教大学 弘誓館G104教室



(1) 会長挨拶 (勝田会長代理)

(2) 学長挨拶 (森 正美・名誉会長)

(3) 出席者紹介 (上野副会長)

(4) 近況報告 資料等をもとに上野副会長より大学の近況報告があった。

(5) 2024年度 事業報告（案）・決算報告（案）（押領司会計）

配布資料に従って事業報告（案）と決算報告（案）が行われた。

(6) 2024年度 監査報告

監事より決算が正しく行われているとの監査報告があり、

事業報告と合わせて拍手により承認された。

(7) 役員選出（敬称略）

【会長・副会長】教育後援会規約第8条および第9条に従って役員会で選出された方の承認

会長 [新任] 片桐 綾子 副会長 [新任] 増元 寛和・ [再任] 上野 泰弘（事務局長）

【監事】教育後援会規約第8条および第9条に従って役員会で選出された方の承認

[再任] 西尾 有紀・ [新任] 山本 通章

【幹事】教育後援会規約第9条2項により会長より委嘱

[再任] 北村 隆信・ [再任] 佐藤 綾・ [再任] 牛濱 真・ [再任] 古川 マキ

【会計】教育後援会規約第9条3項により事務局長より推薦された2名に会長より委嘱

[再任] 押領司 哲也（総務部長兼図書館・研究支援オフィス課長）・ [新任] 山端 慎也（総務課長）

(8) 新旧役員紹介（上野副会長）

役員名簿参照。

(9) 2025年度 事業計画（案）、予算（案）（押領司会計）

配布資料に従って事業計画（案）、予算（案）について説明と提案があり、審議の結果、承認された。

以上を持って議事を終了し、14時に閉会となった。

総会終了後、臨床心理学部 大橋 良枝教授による「親と子の関係が培う子どものメンタルヘルス－子どもがはばたいていくために－」と題して、講演会を開催した。

講演会終了後は、各学科ごとに会場を移動し「学科別懇談会」を開催した。懇談を通じて学科内容の説明と学びや進路の質問等に教職員が直接答える場を持ち閉会した。

2025年度 京都文教大学教育後援会 役員名簿

役 職	氏 名	備 考	役 職	氏 名	備 考
名誉会長（再）	森 正美	学長	会 長（新）	片桐 綾子	臨床心理学科（2年次）
副会長（新）	増元 寛和	総合社会学科（1年次）	副会長（再）	上野 泰弘	事務局長
幹 事（再）	北村 隆信	こども教育学科（4年次）	幹 事（再）	佐藤 綾	総合社会学科（4年次）
幹 事（再）	牛濱 真	臨床心理学科（4年次）	幹 事（再）	古川 マキ	臨床心理学科（2年次）
監 事（再）	西尾 有紀	臨床心理学科（4年次）	監 事（新）	山本 通章	臨床心理学科（1年次）
会 計（再）	押領司哲也	総務部長 兼 図書館・研究支援オフィス課長	会 計（新）	山端 慎也	総務課長

2025年度 京都文教大学 役職者一覧

役 職	氏 名	役 職	氏 名	役 職	氏 名
学長	森 正美	副学長（教学・I R推進担当） 教務部長 教育開発推進センター長	河本 直樹	大学学生部長	林 雅清
健康管理センター長 臨床物語学研究センター長	平尾 和之	臨床心理学研究科長	濱野 清志	総合社会学部長	黒宮 一太
総合社会学科長	澤 達大	実践社会学科長	舛井 雄一	臨床心理学部長	香川 克
臨床心理学科長	井上 嘉孝	こども教育学部長	本山 益子	こども教育学科長	橋本 祥夫
図書館長 ともいき研究推進センター長	鵜飼 正樹	心理臨床センター所長 学生相談室長	松田 真理子	産業メンタルヘルス研究所長	中島 恵子
地域協働研究教育センター長	松田 美枝				

2024年度 京都文教大学教育後援会 決算報告

2024(令和6)年度 京都文教大学教育後援会 決算書

収入総額 42,217,659 円

支出総額 38,225,875 円

繰越金 3,991,784 円

収入の部

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差異	備 考
1 会費	34,900,000	34,550,000	△ 350,000	@20,000×1,727.5名分
2 受取利息	200	14,553	14,353	上・下半期 普通預金利息
3 雑収入	0	6,000	6,000	卒業アルバム購入(1名)
4 繰越金	7,847,106	7,847,106	0	前年度 繰越金
計	42,547,306	42,217,659	△ 329,647	

支出の部

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
1 講師活動補助	6,886,250	4,991,958	2,257,472	課外活動補助 課外活動特別補助 課外活動遠征費 行事企画費 地域連携学生プロジェクト
2 就職進路支援	9,956,000	8,440,986	517,014	ラーニングコモンズ運営費 講師講座開講費 課外講座、検定試験受験料及びテキスト代取扱経費 就職活動支援 就職キャリア支援(学生相談カウンセラー業務委託補助) SA雇用費 京都文教ともいきパートナーズ事業
3 学生生活支援	6,500,000	6,046,418	453,584	学生相談室補助 トレーニングルーム運営費 災害・安全対策費
4 教育環境整備補助	5,500,000	5,525,173	△ 25,173	学生教養図書購入費 PCルーム運営費補助
5 奨学金	9,500,000	8,490,000	1,010,000	就学支援給付金 留学生支援費
6 式典・行事補助	3,500,000	3,329,400	170,600	卒業式関連経費 卒業記念品
7 教育後援会運営費	680,000	402,242	277,758	会議費 事務費 雑費
8 予備費	23,056	0	23,056	予備費
計	42,547,306	38,225,875	4,884,311	

2025年3月31日

上記のとおり相違ないことを認めます。 京都文教大学教育後援会 監事 中本 智子 ㊞

監事 西尾 有紀 ㊞

2024(令和6)年度 京都文教大学教育後援会 特別積立金決算書

収入総額 11,989,652 円

支出総額 5,666,000 円

繰越金 6,323,652 円

収入の部

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
2024(令和6)特別積立金	0	0	0	
利息	1,000	288	712	定期預金利息
繰越金	11,989,364	11,989,364	0	2024(令和6)年度繰越金
計	11,990,364	11,989,652	712	

支出の部

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
プロジェクト学習・活動 支援スペース整備事業	8,000,000	5,666,000	2,334,000	設備費
計	8,000,000	5,666,000	2,334,000	

2025年3月31日

上記のとおり相違ないことを認めます。

京都文教大学教育後援会 監事 中本 智子 (印)

監事 西尾 有紀 (印)

2025年度 京都文教大学教育後援会 予算報告

2025(令和7)年度 京都文教大学教育後援会 予算書

収入の部

(単位:円)

科 目		予算額	前年度予算額	差 異	備 考
1	会費	33,446,400	34,900,000	△ 1,453,600	※20,000×1,672.32名分 ※2025年5月1日現在の学生数1,742名に対し、休学・退学者による減収を見込みの96%の人数で設定
2	受取利息	20,000	200	19,800	上・下半期 普通預金利息
3	繰越金	3,991,784	7,647,106	△ 3,655,322	2024年度 繰越金
計		37,458,184	42,547,306	△ 5,089,122	

支出の部

科 目		予算額	前年度予算額	差 異	備 考
1	課外活動補助	6,120,000	6,886,250	△ 766,250	課外活動補助 課外活動特別補助 課外活動遠征費 行事企画費 地域連携学生プロジェクト
2	就職進路支援	10,349,000	9,958,000	391,000	ラーニングコモンズ運営費 課外講座開講費 就職キャリア支援 (学生相談カウンセラー業務委託補助) 就活支援プログラム補助 SA雇用費 企業コーディネーター雇用補助 (京都文教ともいきハートナーズ事業) タイプ3型インターンシップ等コーディネート業務委託補助 学生と企業と高校との3者連携による商品開発と生産販売体験費用補助
3	学生生活支援	6,400,000	6,500,000	△ 100,000	学生相談室補助 時習館トレーニングルーム運営費 災害・安全対策費
4	教育環境整備補助	1,650,000	5,500,000	△ 3,850,000	学生教養図書購入費
5	奨学費	8,300,000	9,500,000	△ 1,200,000	就学支援給付金 留学支援費
6	式典・行事補助	3,230,000	3,500,000	△ 270,000	卒業式関連経費 卒業記念品
7	教育後援会運営費	500,000	680,000	△ 180,000	会議費 印刷費 事務費 雑費
8	予備費	908,184	23,056	885,128	予備費
計		37,458,184	42,547,306	△ 5,089,122	

2025(令和7)年度 京都文教大学教育後援会 特別積立金予算書

収入総額 6,324,652 円

支出総額 - 円

繰 越 金 6,324,652 円

収入の部

(単位:円)

科 目		予算額	前年度予算額	差 異	備 考
1	2025(令和7)特別積立金	0	0	0	
2	利息	1,000	1,000	0	定期預金利息
3	繰越金	6,323,652	11,989,364	△ 5,665,712	2024(令和6)年度繰越金
計		6,324,652	11,990,364	△ 5,665,712	

京都文教大学教育後援会規約

第 1 章 総 則

(名称)

第 1 条 本会は、京都文教大学教育後援会と称する。

(本部)

第 2 条 本会は、京都文教大学内に置く。

(目的)

第 3 条 本会は京都文教大学（以下「大学」という。）の方針に則り本学の発展に寄与するとともに、大学と学生及び家庭との連携を密にし、教育事業を援助することを目的とする。

(事業)

第 4 条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 大学の教育、研究に対する協力
- (2) 大学の教育研究環境の整備に対する協力
- (3) 学生の研究助成並びに経済援助
- (4) 会員の親睦
- (5) その他本会の目的達成に必要な事業

第 2 章 会員、会費及び事業費

(会員)

第 5 条 本会は次の会員をもって組織する。

- (1) 正会員 大学に在学する学生の保護者又はこれに代わる者
- (2) 特別会員 本会の趣旨に賛同する者で、役員会の推薦に基づき総会で承認された者

(会費)

第 6 条 正会員は次の会費を納入するものとする。

年会費 年額20,000円 春・秋学期の半期ごとに10,000円を納入する。

(事業費)

第 7 条 本会の事業費は、会費、寄附金その他の収入をもって充てる。

第 3 章 役 員

(役員)

第 8 条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 2名
- (3) 幹事 若干名
- (4) 監事 2名
- (5) 会計 2名

2. 副会長のうち1名は、大学事務局長がこれに当る。

大学事務局長不在の場合は、総務部長がこれに当る。

(役員の選出)

第 9 条 会長、副会長及び監事は、役員会において選出し、総会の承認を得るものとする。

2. 幹事は会長が委嘱する。

3. 会計は、大学事務局職員の中から大学事務局長の推薦にもとづき会長が委嘱する。

大学事務局長不在の場合は、総務部長の推薦にもとづき、会長が委嘱する。

(任期)

第 10 条 会長の任期は2年とし、その他の役員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

2. 役員に欠員が生じた場合の補欠の役員の任期は、前任者の残任期間とする。

(職務)

第 11 条 会長は、本会を代表し、これを掌理する。

2. 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその任務を代行する。

3. 幹事は役員会に出席し、本会の運営及び審議に参画する。

4. 監事は、会計を監査する。

5. 本会の事務は大学事務局に委嘱する。

(名誉会長)

第 12 条 本会に名誉会長を置く。

2. 名誉会長は大学学長とする。

(顧問)

第 13 条 本会に顧問若干名を置くことができる。

第 4 章 会 議

(総会)

第 14 条 本会の定期総会は、毎年1回5月に開催するものとし、必要がある場合臨時総会を開催することができる。

2. 総会は、会長がこれを招集し、その議長となる。

3. 総会の議決は、出席会員の過半数の同意によって決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

第 15 条 定期総会においては、次の事項を附議する。

(1) 預算及び事業計画の議決並びに決算及び事業報告の承認

(2) 会長、副会長及び監事の承認

(3) 本規約の改廃

(4) その他役員会が決定した重要事項

(役員会)

第 16 条 役員会は、第8条の役員をもって組織する。

2. 役員会は、必要的都度会長が招集し、議長となる。

3. 役員会は、役員の過半数の出席をもって成立するものとし、議決は出席役員の過半数の同意によって決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

第 17 条 役員会は、次の事項について審議する。

(1) 預算案及び事業計画・決算及び事業報告

(2) 会長、副会長及び監事の選出

(3) 臨時総会に関する事項

(4) 特別会員の推薦

(5) 本規約の改廃に関する事項

(6) 総会に提出する議案

(7) その他本会運営上必要な事項

第 5 章 雜 則

(会計年度)

第 18 条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月末日に終る。

(規約の改廃)

第 19 条 この規約の改廃は、役員会の議決を経て総会の承認により行う。

付則 この会則は、平成8年4月1日から施行する。

この会則は、平成28年4月1日から施行する。

京都文教大学教育後援会奨学金規程細則

(趣旨)

第 1 条 この細則は、京都文教大学教育後援会奨学金規程に基づき、その施行に関して必要な事項を定めるものとする。

(経済的支援を目的とした奨学金)

第 2 条 本条から第13条は、不測の事態が生じたために、学費の支弁が著しく困難となり、退学又は休学を余儀なくされる学生に対し、教育後援会の支援により、学業の継続を支援することを目的とする奨学金について定める。

(給付金額及び期間)

第 3 条 この奨学金の給付金額は、当該学期の授業料及び教育充実費相当額の2分の1とする。

2. 給付期間は、春学期又は秋学期の半年単位とし、引き続いて奨学金を希望する者は、改めて所定の手続きをしなければならない。

(給付対象)

第 4 条 この奨学金は、京都文教大学学部生（科目等履修生・研究生を除く）で、在学中に選考基準に該当する者に限り、2回を限度に給付の対象とする。ただし、最終修業年限を超過した者は原則として対象としない。

(採用数)

第 5 条 奨学生の採用数は教育後援会が毎年度定める寄付金の範囲内で決定する。

(募集)

第 6 条 受付締切日は各学期の授業料及び教育充実費等の徴収日に間に合うよう別途定める。

(申請手続)

第 7 条 奨学金を希望する者は、次の書類を学生課に提出しなければならない。

(1) 志願書（所定の書式）

(2) 源泉徴収票又はこれに準ずる書類

(3) 不測の事態を証明できる書類

(選考基準)

第 8 条 この奨学金給付の選考基準を以下の通りとする。

家計急変の事由が生じた事により、その後1年間の家計基準が給与所得者については841万円以下、給与所得者以外については355万円以下であることが確実となる者。ここでいう「家計基準」の額とは、学生本人の父母又はこれに代わって家計を支えている者（主たる家計支持者一人）の収入金額をいい、「給与所得者」にあっては源泉徴収票の支払金額とし、「給与所得者以外」にあっては確定申告等の所得金額とする。

2. 困窮度、学力・人物・健康について日本学生支援機構の選考基準による。

(選考)

第 9 条 選考は、学生課で書類を審査の上、学生委員会の委員が直接面接を行い、事情を聴取し、人物・健康・学費支弁の困難度・学業成績等からその資格を検討し、学生委員会の審議を経て、学長が決定する。

(通知及び給付)

第 10 条 採用が決定した者に対しては、本人及び連帯保証人に文書でもって通知する。

2. 奨学生は次の書類を提出する。

(1) 誓約書（付、受領書）

3. 奨学金の給付は授業料及び教育充実費との相殺をもって行う。

(給付取消)

第 11 条 奨学生が、次の各号に該当するときは、給付決定を取り消すことができる。

(1) 奨学生が、給付を必要としなくなつた場合。

(2) 退学・除籍により学籍を失つた場合。

(3) 停学その他の処分を受けた場合。

(奨学金の返還)

第 12 条 申請書類等に虚偽の記載事実が認められた場合は、給付を取り消し、奨学金の返還を求めることがある。

(所管)

第 13 条 第2条から第12条に関する事務は、学生部学生課が行う。

(留学支援を目的とした奨学金)

第 14 条 本条から第24条は、留学支援を目的とする奨学金について定める。

(留学の種別)

第 15 条 この規程の対象となる留学形態は以下の通りとする。

(1) 交換留学 本学在学中の身分のまま、交換留学協定先の大学にて1あるいは2学期間を学修する留学

(2) 短期留学 概ね3週間から1ヶ月までの語学研修と現地文化体験を目的とした留学

(3) 派遣留学 本学を休学し、協定先の大学にて1あるいは2学期間を学修する留学

(対象校・給付金額・採用人数等)

第 16 条 この奨学金の対象校・給付金額・採用人数等は、以下の通りとする。

対象校	交換留学	短期留学	派遣留学
湖西大学校	トラン・リバース大学、イリノイ大学、湖西大学	リフィルド大学	
給付金額	上限20万円	上限10万円	上限30万円

採用人数 教育後援会が毎年定める範囲

応募期限 渡航日の1ヶ月前

帰国後の翌々月中

渡航日の1ヶ月前

第 17 条 この奨学金は、京都文教大学学部生（科目等履修生・研究生を除く）で、在学中に次条選考基準に該当する者に限り、2回を限度に給付の対象とする。ただし、最終修業年限を超過した者は原則として対象としない。

(選考基準)

第 18 条 この奨学金給付の選考基準を以下の通りとする。

(1) 交換留学 現地の言語・文化に深い興味関心を有し渡航中は訪問国の人々と交わるとともに、訪問国の伝統と文化を尊重できる学生であること。加えて、現地教員・現地学生・ルームメイトと良好な関係を築き、眞剣に学修に励むことが事前面接時に確認できること

(2) 短期留学 現地教員・クラスメート・ホームステイ先の家庭と良好な関係を築き学修に励んだ後、修了証書を得るとともに、帰国後に適切な内容の参加報告書を提出できる者

(3) 派遣留学 現地の言語・文化に深い興味関心を有し渡航中は訪問国の人々と交わるとともに、訪問国の伝統と文化を尊重できる学生であること。加えて、現地教員・現地学生・ルームメイトと良好な関係を築き、眞剣に学修に励むことが事前面接時に確認できること

(申請手続)

第 19 条 奨学金を希望する者は、次の書類を学生部国際交流オフィスに提出しなければならない。

(1) 申請用紙

(2) 留学に係る志望動機を記した書類

(3) 入学許可書写（交換留学・派遣留学のみ）

(選考)

第 20 条 選考は、国際交流委員会の委員が個別面接を行い、留学動機等を精査後、国際交流委員会の審議を経て、学長が決定する。

(通知及び給付)

第 21 条 採用が決定した者に対しては、本人に文書でもって通知する。

2. 交換留学及び派遣留学の奨学生には次の書類を提出させる。

(1) 誓約書（付、受領書）

(2) 振込登録書

(給付取消)

第 22 条 奨学生が、次の各号に該当するときは、給付決定を取り消すことができる。

(1) 奨学生が、留学先予定入期限の終了を待つ帰国したとき。

(2) 奨学生が、現地に入校により退学・除籍の处分を受けたとき。

(3) 真剣に学修に励んだことが、帰国後の報告書、あるいは現地指導教員からの報告に認められないとき。

(4) 退学・除籍により学籍を失つた場合。

(5) 停学その他の処分を受けた場合。

(奨学金の返還)

第 23 条 申請書類等に虚偽の記載事実が認められた場合は、給付を取り消し、奨学金の返還を求めることがある。

(所管)

第 24 条 第14条から第23条に関する事務は、学生部国際交流オフィスが行う。

(改廃)

第 25 条 この細則の改廃は、教育後援会役員会の意向に基づき、当該委員会、教授会及び大学運営会議の審議を経て、学長の意向を受けて理事長の決裁により行う。

付則 この細則は、平成26年4月1日から施行する。

平成27年4月1日改正第9条・第13条・第20条・第24条・第25条

平成29年4月1日改正第16条・第19条・第20条・第24条

平成31年4月1日改正第19条・第24条

令和4年4月1日改正第10条・第16条